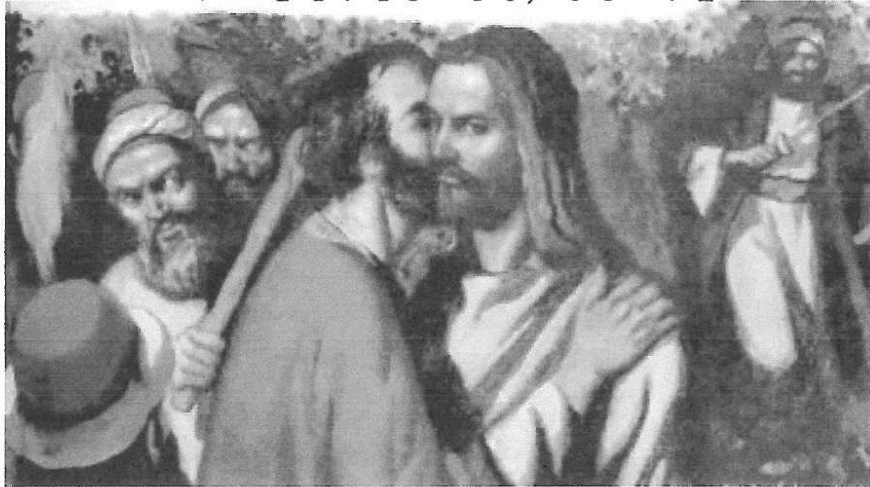


「沈黙」のメッセージ

マルコ 14 : 43 ~ 50 / 66 ~ 72



1、「信念」と「信仰」の違いは？

信念……自分の力が及ぶ範囲内では強さを発揮。

信仰……自分のもろさや欠けを自覚し、それゆえに神により頼む生き方。

潰れてしまったところから力を発揮する。

ペテロ「たとい、みんなの者がつまずいても、わたしはつまずきません」 マルコ 14:29

私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。

Ⅱコリント 12 : 9, 10

2、ゲッセマネでの弟子達

①イスカリオテ・ユダ

「死の接吻」をイエスさまと交わす。口づけは相手に尊敬と愛を表す挨拶。

ユダはこれを利用してイエスさまを裏切った。

②ペテロ

イエスに手をかけようとした大祭司のしもべを剣で切り付けた。

突然の危機に、自分でこの場をどうにかしなければと剣を抜いた。

剣をさやに納めなさい。剣をとるものは剣で滅びる。 マタイ 26 : 52

◆剣を納めない限り、戦いは次の戦いを生み出す原因となる。

ペテロが切りつけた相手は、大祭司のしもべマルコス(ヨハネだけに書かれている)

このことがそのまま拡散したら、その後どうなっていたらうか。

③他の弟子達

イエスさまの予告通り、イエスさまを見捨てて皆この場から逃げてしまった。

◆信念だけでイエスさまの十字架の後をついて行くことは出来ない。

ただ主により頼む信仰によって！

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。 ガラテヤ 2 : 20

3、不当な裁判にかけられたイエスさま

ユダヤはローマの植民地なので、ユダヤ議会→ローマ総督 この順で二重の裁判を受けるのが通常

何が不当か？

- ①深夜に議会が招集されて裁判が行われた。
- ②罪状が確定しないまま裁判が始められ、証拠集めが後回し。
- ③偽証が多く証言の一致もない。自分たちが裁き主であるかのような裁判。

大祭司 「あなたは、ほむべき方の子、キリストですか。」

イエス 「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。」

◆自分に敵意が向けられる場で、大胆にこれから起こる全てを語った。